

令和7（2025）年度  
廿日市市との包括的連携協定に伴う  
地域連携センター活動報告書

山陽女子短期大学

地域連携センター





## 令和7（2025）年度地域連携センター活動報告によせて

山陽女子短期大学 地域連携センター長

新谷 奈苗

山陽女子短期大学に、広島県内の大学・短期大学に先駆けて、生涯学習センターが設置されたのは、平成元（1989）年のことです。平成24（2012）年には、さらなる機能強化を目指し、活動領域を広げた組織として、地域連携センターが設置されました。また、その翌年の平成25（2013）年には、廿日市市との間に「包括的連携協力に関する協定」が結ばれました。本協定を結んで早や12年、このような経緯で設置された地域連携センターは、現在、生涯学習部門、産官学連携部門、自治会部門の3部門が連携を図りながら、事業の運営を担っております。本学の特性と地域からの要請を踏まえて、事業を「1. 食と健康の増進」、「2. 教育・文化・生涯教育の推進」、「3. 地域の活性化・まちづくりの推進」、「4. 人材の育成」、「5. 環境活動の推進」、「6. 産官学連携事業」、「7. その他の事業」の7分野で展開をしております。またこれら活動を支える学内の体制として、地域活動に関心を持ち、参画する学生の活動の安定を目指して、学内にボランティア委員会を設置し、教員は学生のボランティア活動のサポートにあたっております。加えて今年度からの追加目標として、各ボランティア活動に明確な目標を明示し、それを参加学生が達成できるよう、大学と地域が連携して学生の成長を支えるシステムの確立を図ります。この取り組みを始めた成果として、ボランティアにおける、個々の学生の目標の明確化、目標を達成するための活動の具体が理解しやすく、そのため短期間のボランティア活動においても、学生の学びの深さや成長を感じ取ることができました。

廿日市市との協定締結13年目にあたる本年度は、19事業の報告書がまとめられました。地域連携センターの活動は、廿日市、連携くださる組織のご協力によって運営できております。この先も地域の方々と連携を深めながら、本学と地域の、さらなる発展を目指したいと考えております。今後とも、山陽女子短期大学地域連携センターの活動と教育にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



## 令和7年度 山陽女子短期大学地域連携センター事業一覧

### 1. 食と健康の増進

整理 番号	事 項	実施時期	連絡責任者		新規 ○
			地域	本学	
1-1	地域での食育クッキング	7月 8月 12月	地御前市民センター 安全事業部	吉村	
1-2	地域での防災クッキング (パッククッキング)	8月	地御前市民センター	吉村	○
1-3	サロンでの食事提供	9月	阿品清鈴園	吉村	
1-4	介護に役立つ栄養と簡単レシピ 講座及び調理	10月	大野東市民センター	吉村	
1-5	地域の老人ホームでのイベント (アフタヌーンティ)	11月	グッドタイムホーム・宮島	吉村	○
1-6	みんなの健康教室	12月	廿日市市民活動センター	吉村	
1-7	ふれあいサロン	2月	地御前市民センター	吉村	○

### 2. 教育・文化・生涯学習の推進

整理 番号	事 項	実施時期	連絡責任者		新規 ○
			地域	本学	
2-1	山陽女子短期大学公開講座	前期 6月 後期(PC) 9月	廿日市市教育委員会 生涯学習課	吉村	
2-2	しちく学園	7月	佐方市民センター	吉村	

### 3. 地域の活性化・まちづくりの推進

整理 番号	事 項	実施時期	連絡責任者		新規 ○
			地域	本学	
佐方1	れんげ祭り	4月	佐方自治会	新谷 松岡	
佐方2	一人暮らしの高齢者への食事の 提供と食事指導	7月	佐方自治会	水本 益	

佐方3	佐方地区親善盆踊り大会	8月	佐方自治会	新谷 松岡	
佐方4	さがたっこひろば	11月	佐方市民センター	松崎	

#### 5. 環境活動の推進

整理 番号	事 項	実施時期	連絡責任者		新規 ○
			地域	本学	
5-1	食べきりレシピの開発	5月～9月	廿日市市循環型社会推進課 (はつかいち mottainai 大作 戦)	有吉 藤原	○
5-2	企業が実施するフードドライブ への参加	9月	廿日市市循環型社会推進課 (はつかいち mottainai 大作 戦)	有吉	○
5-3	フードドライブ連携実施	9月～ 11月	廿日市市循環型社会推進課 (はつかいち mottainai 大作 戦)	有吉	
5-4	はつかいち環境フェスタ	10月	廿日市市ゼロカーボン推進課	有吉	
5-5	家庭で余りがちな食材食べきり 教室	12月	友和市民センター	有吉 藤原	○

#### 7. その他の事業

整理 番号	事 項	実施時期	連絡責任者		新規 ○
			地域	本学	
7-1	廿日市市消防団「機能別団員」	4月～ 11月	廿日市市消防署	小野寺	

# 事業報告



# 1. 食と健康の増進

【1-1 (1)】

## 地域での食育クッキング①

(食物栄養学科)吉村 真奈美

活動の目的	小学3年生の児童に4年生からの家庭科の実習に備えた基礎調理を学んでもらう
大学側の目的	地域との交流及び連携 学生と一緒に活動することで、社会とのつながりにもなる
共催団体名および共催の経緯	廿日市市地御前市民センター 生活安全部
活動年月日・時間	2025年7月6日 9:00~14:00
活動の拠点	廿日市市地御前市民センター
活動の対象者	小学生3年生~6年生 及び高校生と短大生
対象者人数	20名(児童11名 高校生1名 短大生1名 大人7名)
参加学生人数	1名(食物栄養学科2年)
活動内容	調理の基礎を学ぶということで、①米のとぎ方②野菜のせん切り③パッククッキングでの炒り卵作り(防災も兼ねて)④味噌汁のだしの取り方を中心に講義を行い4つの班分けで調理実習を行う 献立:五色丼 味噌汁 野菜サラダ フルーツゼリー 初めて調理を行う児童もいたため、ケガのないよう大人が各班2名ついて実習を行った。学生もそのうちの1班に入り児童と一緒に切込みを行ったり、指導や見守りをし、調味料を計量したり、実際に調理を一緒に行った。 学生は難しい言葉や専門用語などを使わずに小学生の低学年生に説明をすることが難しかったそうであるが、とても生き活きと活動をしていた。彼女は管理栄養士を希望しているため、今回の活動が良い経験になったようである。
所感	今回は基礎的調理という内容であったので、煮干しとだし昆布のだしを取った。今回の料理で一番美味しかったのは「味噌汁」と答えた児童が多く、だしのおいしさが伝わったことに感激であった。



【1-1(2)】

地域での食育クッキング②

(食物栄養学科)吉村 真奈美

活動の目的	地域の小学生を中心に食育を学んでいただく
大学側の目的	地域貢献としての地域活動
共催団体名および共催の経緯	廿日市地御前市民センター 生活安全部
活動年月日・時間	2025年8月3日
活動の拠点	廿日市地御前市民センター
活動の対象者	小学生を中心に地元住民
対象者人数	26名
参加学生人数	なし
活動内容	<p>夏の食育クッキングとして</p> <p>①今年度は、ピタパン タンドリーチキン ひまわりサラダ すいかゼリー コーンスープの調理実習。</p> <p>②ピタパンについて説明 ピタパンのピタはヘブライ語でパンという意味 地中海沿岸、中東、北アフリカなどで食べられているパンであること等</p> <p>③今回はタンドリーチキンを作成するときに、中心温度を測定した。 カンピロバクター食中毒についても説明した。</p> <p>④この時期の献立として、ポテトサラダを向日葵に見立てて盛り付けを行った。また、西瓜をゼリーに見立て、皮をかき氷シロップで、白い部分はヨーグルトで、西瓜の赤い部分はスイカジュースを用いて調理した。</p> <p>⑤ワンプレート盛りとし、好きな具材をピタパンにはさんで食べた。</p>
所感	ピタパンは一次発酵だけのパンではあるが、パンを作る楽しさや工程が理解されたようでした。ワンプレート盛りで、とても華やかな美味しいランチが出来上がった。TT管理をしっかりと伝えることが出来た。



【1-1(3)】

地域での食育クッキング③

(食物栄養学科)吉村 真奈美

活動の目的	小学生及びその保護者と一緒に食事作りを通して、行事食の意味、食を通してのコミュニケーションや調理技術の習得を行う
大学側の目的	地域貢献として地域の方に食を楽しんでもらい、興味関心を持ってもらう
共催団体名および共催の経緯	地御前地区自治体生活安全部
活動年月日・時間	2025年12月21日 9:30~12:30
活動の拠点	地御前市民センター2階 調理室
活動の対象者	主に小学生及び小学3年生以下は保護者同伴及びどなたでも
対象者人数	25名の予定であったが、保護者と一緒に参加される保護者が多く、合計30名
参加学生人数	なし
活動内容	<p>クリスマスクッキングとして チーズフォンデュ</p> <p>具材：ソーセージ・ミニトマト・ブロッコリー・じゃが芋・バケット サラダ コーンスープ ミニオムライス ミニおむすび フライドチキン カップインケーキ パンナコッタ</p> <p>以上を4つの班に分かれて、調理した。包丁やピーラーの使い方や、切り方調味料の計量を行ったり、彩を考えた盛り付けなど創意工夫を行いながら、料理を仕上げた。その課程が食育に繋がり、行事食の楽しみにも繋がり、学年の違う児童たちのコミュニケーションにもなった。</p>
所感	1班に7名以上での作業となり、ごちゃごちゃした感じではあったが、ケガもなく無事終了出来て良かった。クリスマスということもあり、食べる部屋もクリスマス仕様とした。チーズフォンデュはインフルエンザ拡大時期でもあり、ココット皿を使用し、1人ずつの対応とした。色とりどりの料理に満足であり、喜んで頂いた。



【1-2】

## 地域での防災クッキング

(食物栄養学科)吉村 真奈美

活動の目的	防災意識を高めるためにパッククッキングを実際に行ってみる
大学側の目的	地域との交流及び連携 食育の一環
共催団体名および共催の経緯	地御前市民センター 安全事業部
活動年月日・時間	2025年8月19日 10:00~14:00
活動の拠点	地御前市民センター
活動の対象者	地御前小学校 低学年から高学年まで
対象者人数	11名プラス5名
参加学生人数	なし
活動内容	<p>①パッククッキングについて説明を行う</p> <p>②パッククッキングの実践          ご飯を炊く          カレーの材料を切り、パッククッキングへ          チョップドサラダ作り</p> <p>③新聞紙での食器作り</p> <p>④食育クイズ          野菜について 10問出題</p>
所感	パッククッキングを行って見た経験がない児童ばかりで、初めての経験で、米を研がずにそのままパッククッキング用の袋に入れて炊飯やカレー作りをすることに驚きながらも、防災の意識がより高まり、新聞紙で器を作ったことも良い経験となったようである。食育のクイズを行うことで、野菜についても学ぶことが出来、食材についての知識も学ぶことが出来たようである。



【1-3】

## サロンでの食事提供

(食物栄養学科)吉村 真奈美

活動の目的	高齢者の昼食づくりを通して、地域サロンでの栄養指導を行う
大学側の目的	食事を通じて低栄養防止、健康寿命延伸への地域活動を行う
共催団体名および共催の経緯	阿品清鈴園 サロン阿品
活動年月日・時間	2025年9月16日
活動の拠点	阿品清鈴園4階
活動の対象者	サロン阿品に通われている要支援の高齢者
対象者人数	10名
参加学生人数	なし
活動内容	<p>昼食作りを行う。</p> <p>昼食前に「さあにぎやかにいただく」の10品目を説明し、10品目がどの料理に入っているかを考えてもらいながら食事を楽しんでいただく。</p> <p>食後どの料理に10品目が入っていたかを一緒に考えながら、正解を発表した。バランスの良い食事を摂取するために1日7品目以上を摂取するのが良いとされているので、日々の食事にも是非取り入れていただきたいことをお伝えする。バランスの良い食事、低栄養防止のためにも毎食確認しながら食事をしていただくことの重要性を説明する。</p>
所感	<p>毎年1回以上参加させていただいているサロンでの活動ではあるが、事前準備等はとても大変である。食事を通して食の重要性や低栄養防止の食事について講座を交えながら確認出来、内容も伝わったと感じた。食事をする際今後、10品目のチェックをしていっていただきたい。</p>



### 【本日の献立】

炊き込みご飯・ヒレカツ

炊き合わせ 高野豆腐・昆布巻き・人参・いんげん

紅白なます・小松菜ナムル

黒豆 金箔のせ・紅白ソーメン汁

### 【デザート】

抹茶パannaコッタ・スイートポテト・梨のコンポート

【1-4】

介護に役立つ栄養と簡単レシピ

(食物栄養学科)吉村 真奈美

活動の目的	ひとりで抱えない介護の時間 学んで話して心が軽くなる介護に関する全6回のプログラムの第3回目として実施
大学側の目的	地域の方に低栄養防止活動として、また、介護食について紹介
共催団体名および共催の経緯	大野東市民センター
活動年月日・時間	2025年10月23日 10:00~13:00
活動の拠点	大野東市民センター
活動の対象者	大野東地域の高齢者及び介護者
対象者人数	20名
参加学生人数	なし
活動内容	<p>10:00~11:00</p> <p>①低栄養及びフレイルについての座学</p> <p>②バッククッキングについて及び調理実習の説明</p> <p>11:00~</p> <p>調理実習</p> <p>さあにぎやかにいただく を盛り込んでの簡単・時短クッキング</p> <p>バッククッキングでのごはん作り</p> <p>簡単ホワイトソースでライスグラタンづくり</p> <p>生春巻</p> <p>豆乳入り味噌汁</p> <p>簡単スイートポテト</p> <p>以上を4班に分かれて調理、試食を行った。</p>
所感	<p>年代的には60代の方が多く、男性が1人で残りの参加者は女性であった。</p> <p>座学に関しては、バッククッキングを知らない方も多くおられたので、実際に米を袋に入れ真空状態を作ってもらった作業を行った。1人1袋ご自分のご飯を炊いてもらった。作業は簡単ではあったものの、時間が結構かかったが、美味しく作成できた。簡単、短時間で作成できるため、ご家庭でも作成していただきたい。</p>



【1 - 5】

## 地域の老人ホームでのイベント

(食物栄養学科)吉村 真奈美

活動の目的	地域にある有料老人ホームのイベントとして、テーブルコーディネート及びアフタヌーンパーティを通じて入居者同士及びケアマネとの交流を図る
大学側の目的	地域貢献としての活動
共催団体名および共催の経緯	グッドタイム・宮島
活動年月日・時間	2025年11月19日 14:30~15:30
活動の拠点	グッドタイム・宮島内
活動の対象者	新規の入居者様6名 及びケアマネ4名
対象者人数	10名
参加学生人数	なし
活動内容	最近入居された方、日頃施設内であまり交流のない方を対象に、非日常の空間を演出し、お茶会を行うことで、交流の場及び顔合わせを目的とした会であった。テーブルコーディネートはピンクを基本にセッティングし、3段のアフタヌーン食器は、手作りサンドイッチ・マカロン・ミニシュークリーム・ケーキ及び手作り豆乳パンナコッタをご用意し、アフタヌーンティを楽しんでいただいた。アフタヌーンティについて及び美味しい紅茶の淹れ方のレクチャーも行った。ケアマネ4名の方が行ったクイズで盛り上がり、約1時間ではあったが、入居者の方々にとても喜ばれ、楽しんでいただいた。
所感	非日常を演出することで、外出気分を味わっていただき、入居者同士の交流につながり、次回は何をしたいかなどの希望も出され、大いに盛り上がりおられ、笑顔をたくさん見せていただいた。自己紹介もあり、それぞれの入居者について理解されたようであった。最高年齢は99歳の女性であったが、とても楽しそうにされていたのが印象的であった。



【1-6】

## みんなの健康教室

(食物栄養学科)吉村 真奈美

活動の目的	フレイル予防に取り組み、健康・福祉の向上で進める「まちづくり」
大学側の目的	地域と連携してフレイル予防を行う
共催団体名および共催の経緯	NPO 法人五師士会 廿日市市公衆衛生推進協議会 廿日市市健康福祉部地域共生社会推進室 廿日市市市民活動センター
活動年月日・時間	2025年12月5日
活動の拠点	山崎本社みんなのあいプラザ 調理室
活動の対象者	年齢には関係なく 廿日市市住民
対象者人数	16名
参加学生人数	なし
活動内容	<p>あいプラザ調理室において、2025年度みんなの健康教室3回目として、フレイル予防の調理を行った。</p> <p>「さあにぎやかにいただく」を基本として、食材10品すべてを使用した調理実習を通して、1日の中で10品目を意識を持って食事することで、バランスよくフレイル予防を行うことが出来ることを理解していただいた。</p> <p>今回は簡単で時短できるレシピとして実習を行った。</p> <p>1 炊き込みごはん パッククッキングでの調理 (模擬として全粥もパッククッキングで調理した)</p> <p>2 簡単春巻き (たんぱく質摂取)</p> <p>3 簡単白和え (豆腐+わかめで時短簡単レシピ)</p> <p>4 簡単スイートポテト (さつまいをレンチンし、アイスクリームで)</p> <p>5 かきたま汁 (とろみをつけて飲みこみやすく)</p> <p>6 豆乳パンナコッタ 6品の内1~5までを当日調理してもらう</p>
所感	当日は4班に分かれての調理実習であった。60歳以上の女性が多く参加されていた。実際簡単に作ることが出来、美味しかったと好評であった。10品目のうち合計7品目以上が目標と言われているが、出来るだけ10品目を目指し今後食事をしていただければバランスも良い食事になると思う。



【1 - 7】

## ふれあいサロン

(食物栄養学科)吉村 真奈美

活動の目的	会員相互の親睦、ふれあい活動をもって健康で豊かな生活を築きその福祉を増進する事
大学側の目的	フレイル予防についての講義を行うことで、健康寿命延伸に向けた取り組みのきっかけとなり短大の地域貢献へとつながる
共催団体名および共催の経緯	地御前シニアクラブ連合会
活動年月日・時間	2026年2月19日 13:30~15:30
活動の拠点	地御前市民センター
活動の対象者	シニアクラブ連合会会員
対象者人数	78名
参加学生人数	なし
活動内容	<p>「フレイル予防の食事」と題し、以下の内容で講義を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.フレイル及びプレフレイルについて フレイルチェック表あり</li> <li>2.なぜフレイルが注目されるのか</li> <li>3.高齢者の食生活で大切なこと</li> <li>4.食事の負担を減らすコツ</li> <li>5.エネルギー&amp;たんぱく質増しましレシピ</li> </ol> <p>キーワードとして：体内時計 朝たん トリプトファン</p> <p>フレイル予防は、運動・食事・社会参加の3つの要素が重要であり、まず自分自身が今どの状態かを知ることが重要である。今回の講座では、食事について具体的なたんぱく質量やその摂取法や工夫、水分摂取の効果的な方法、80GO運動やプラス10などの活動量の増加、体重管理の重要性、しっかり食べれるお口づくり、噛むことの重要性、食の楽しみ等について55分間行った。具体的な食事の摂取方法や工夫、栄養素アップの料理紹介も行った。</p>
所感	108名の申込者であったが当日体調不良でお休みの方が多く、結局78名の参加者であった。フレイルについてはすでに知識をお持ちなので、今回は体内時計や時間栄養学を取り入れた講座を行った。参加者様は熱心に聞かれ、良い学びの時間となったようだ。

## 2. 教育・文化・生涯学習の推進

【2-1 (1)】

### 第45回山陽女子短期大学公開講座（2025年度前期①）

(食物栄養学科)岡崎 尚

活動の目的	公開講座は、地域の課題やその課題解決に向けて設定した目標をテーマに決めて実施している。 日本では、特に最近、日常生活を送る中で様々な災害が頻繁に起こっているため、今年度は「いざという時のために！」役に立つ食と健康の知識を学ぶことを目的として、「災害時でも役立つ栄養管理と健康維持」をテーマに2回シリーズで開催した。第1回目は「災害時に役立つ身近な保存食づくり」というタイトルで実施した。
大学側の目的	本学の専門的な教育・研究成果を地域社会に還元する。
共催団体名および共催の経緯	廿日市市教育委員会生涯学習課
活動年月日・時間	2025年6月7日 13:30～15:00
活動の拠点	山陽女子短期大学
活動の対象者	地域住民
対象者人数	30名
参加学生人数	なし
活動内容	「災害時に役立つ身近な保存食づくり」のタイトルで講和を行った。 加工食品の知識が災害時に役立つことを想定して話を進めた。災害時の厳しい食環境では、食中毒も発生しやすいことから、この点も内容に加えた。 簡単な食材でできる保存食として、乳酸発酵の漬物、腐敗や食中毒のない佃煮などのレシピや製造方法を紹介した。 責任者：(食物栄養学科)吉村 真奈美
所感	地域の方にわかってもらえる内容かどうか心配したが、喜んでいただいたようで安心した。



【2-1(2)】

第45回山陽女子短期大学公開講座（2025年度前期②）

（臨床検査学科）飯伏 義弘

活動の目的	公開講座は、地域の課題やその課題解決に向けて設定した目標をテーマに決めて実施している。 日本では、特に最近、日常生活を送る中で様々な災害が頻繁に起こっているため、今年度は「いざという時のために！」役に立つ食と健康の知識を学ぶことを目的として、「災害時でも役立つ栄養管理と健康維持」をテーマに2回シリーズで開催した。第2回目は「自然災害と臨床検査」というタイトルで実施した。
大学側の目的	本学の専門的な教育・研究成果を地域社会に還元する。
共催団体名および共催の経緯	廿日市市教育委員会生涯学習課
活動年月日・時間	2025年6月14日 13:30～15:00
活動の拠点	山陽女子短期大学
活動の対象者	地域住民
対象者人数	14名
参加学生人数	なし
活動内容	西日本豪雨災害時に臨床検査技師として、DMATやJMATなどと協力して行った検査の種類とその意義を伝達した。災害時に増加する「肺血栓塞栓症」は死に至る疾患であり、早期発見、早期治療が大切である。 しかし、気象変動により危険な暑さが続く夏場においても、本疾患は増加する。水分補給と足の運動の重要性を伝えることが出来た。 責任者：（食物栄養学科）吉村 真奈美
所感	災害は予測できない。しかし、広島県は日本一の水害発生危険区域であるため、いざ災害に遭遇した時の備えと命を守る行動の知識は大切だと思う。 このような機会を与えていただきありがとうございました。



【2-1(3)】

第45回山陽女子短期大学公開講座 (2025年度 PC)

(人間生活学科) 金岡 敬子

活動の目的	公開講座は、地域の課題やその課題解決に向けて設定した目標をテーマに決めて実施している。日々の生活に役立つ身近なテーマを体系的に学ぶことができ、参加者が楽しみながら活用方法を習得することを目的として、高齢者・初心者向け PC 講座を開催している。今年度は、「Word の機能を使って回覧板を作ってみよう！」というテーマで、1日目に「パソコンの便利な使い方」、2日目に「回覧板を作成する」というタイトルで実施した。
大学側の目的	本学の専門的な教育・研究成果を地域社会に還元する。
共催団体名および共催の経緯	廿日市市教育委員会生涯学習課
活動年月日・時間	2025年9月2日～9月3日 13:30～15:00
活動の拠点	山陽女子短期大学
活動の対象者	地域住民
対象者人数	9月2日：30名 9月3日：29名
参加学生人数	2名(人間生活学科1年)
活動内容	1日目は、便利な機能としてショートカットキーを使った操作方法の説明をして、データの編集、表作成の基本操作を行った。2日目は、1日目でマスターした操作方法を活用し、「回覧板」作成に取り組んでもらった。ショートカットキーを活用することで、効率よくデータの作成ができるため、短時間で資料の作成ができることを学んでもらった。目的達成のため学生もサポーターとして参加し、地域に根差した活動として地域の幅広い層の方々へ本学の教育内容を発信する良い機会となっており、地域貢献にも役立っている。 責任者：(食物栄養学科) 吉村 真奈美
所感	毎年受講希望者が多い講座で、今年度は30名の受講者の参加で開催した。初心者向けの講座のため、学生、教職員、市の職員の方々のきめ細かいサポート体制により、ほとんどの方がPC操作に興味を持ってくださり、2日間で計画していた「回覧版」作成まで実施でき、その成果物を持ち帰ってもらうことができた。



【2-2】

## しちく学園

(臨床検査学科) 三島 清司

活動の目的	地域の幅広い世代への教養講座として開催
大学側の目的	本学の専門的な教育・研究成果の地域社会へ還元し、地域との連携を図る。
共催団体名および共催の経緯	主催：佐方市民センター
活動年月日・時間	2025年7月31日 13:30～15:00
活動の拠点	佐方市民センター
活動の対象者	佐方地区住民
対象者人数	約20名
参加学生人数	なし
活動内容	健診等での血液検査結果の「数値を読む力」を身につけて、健康維持に役立てていただくことを目的に検査の目的や数値の意味について解説した。 責任者：(食物栄養学科) 吉村 真奈美
所感	日中の暑い時間帯での開催であったが、予想を上回る参加人数であった。熱心に受講いただいた。また、講演開始前から質問をいただくなど参加者の健康意識の高さを実感した。



### 3. 地域の活性化・まちづくりの推進

【佐方1】

#### さがた れんげ祭り

(人間生活学科)新谷 奈苗・松岡 亜希

活動の目的	アイラブ佐方自治会コミュニティ事業行事への参加。 地域住民が主体的に参加することで、地域活性化を図る。
大学側の目的	学生と地域の交流促進。また大学としての連携と地域貢献。
共催団体名および共催の経緯	主催：アイラブ佐方自治会 共催：佐方市民センター
活動年月日・時間	2025年4月29日 10:00~15:00
活動の拠点	城内二丁目 JR 線路脇広場
活動の対象者	佐方地区の住民
対象者人数	佐方地区住民 多数
参加学生人数	3名(臨床検査学科1年:1名 臨床検査学科2年:2名)
活動内容	アイラブ佐方自治会による「さがたれんげ祭り」が開催され、地域交流が行われた。昔遊び竹馬の体験コーナーを任せてもらい、竹馬を通じて園児や小学生、保護者の方々との世代間交流ができ、学生にとって有意義な時間となった。役割を与えられたことで、声掛けのきっかけにもなり、最後まで楽しそうに交流をしていた。
所感	毎年、学生を連れて参加している行事だが、今年度は学生への案内が遅かったのか参加者3名と少なかった。初めは緊張していた学生たちも、お昼前には楽しそうに笑顔で交流していた。学生にとって実りの多い一日になった。



【佐方2】

一人暮らしの高齢者への食事の提供と食事指導

(食物栄養学科)水本 沙織・藤井 雅也・益 優沙

活動の目的	廿日市市佐方地区の一人住まいの高齢者に昼食の弁当を配布した。目的は、他人との関わりが少なくなってくる一人住まいの高齢者に対し、食事のサポートを行うこと、また食事の提供による食育を行う事で、健康な食生活を送ってもらうことである。
大学側の目的	学生が給食管理実習Ⅰの一環として、高齢者を対象に献立作成や発注、調理、盛付けを行うことで、学びを深める。
共催団体名および共催の経緯	佐方アイラブ自治会 一般社団法人全国栄養士養成施設協会
活動年月日・時間	2025年7月18日 11:30 お渡し
活動の拠点	本学 集団給食実習室 廿日市市佐方市民センター
活動の対象者	廿日市市佐方地区の一人住まいの高齢者
対象者人数	佐方地区高齢者 65名 民生委員 10名 自治会役員 5名 計 80名
参加学生人数	学生 食物栄養学科栄養管理コース2年生 19名 担当教員 ★水本 沙織・藤井 雅也・益 優沙 計 22名
活動内容	2025年7月18日(金) 11:30 大学に佐方アイラブ自治会担当者が到着・弁当のお渡し 《献立》 ・ちらし寿司・鯖の竜田揚げ・蓮根のはさみ揚げ・パプリカの素揚げ ・夏野菜の焼き浸し・小松菜のじゃこ和え・デザート(水羊羹) 午前7時30分に集合し、8時より調理開始した。事前に予定していた作業工程に基づき調理した。11時30分に自治会の方が受け取りに来校され、予定通り引き渡した。弁当と共に給食たよりを渡し、高齢者の食への関心を高める工夫をした。提供後に直接高齢者から大学に連絡をいただき、感謝を伝えられた。また、学生は給食管理実習Ⅰでは附属のさんよう幼稚園へ給食提供を行っていたが、対象者を変えることで学びを深めることができた。
所感	地域の高齢者の方が楽しみに待っておられる、毎年の恒例事業で、学生にとっても貴重な体験となっている。お弁当のお渡し後、高齢者の方から直接美味しかった等のご連絡をいただいた。



【佐方3】

佐方地区親善盆踊り大会

(人間生活学科)新谷 奈苗・松岡 亜希

活動の目的	アイラブ佐方自治会主催イベント事業への参加。 イベントを通して親睦を深め、地域に愛着をもってもらう。
大学側の目的	自治会との親睦・地域住民の方々との交流。
共催団体名および共催の経緯	佐方アイラブ自治会
活動年月日・時間	2025年8月2日 16:00~21:00
活動の拠点	佐方公園
活動の対象者	地域住民
対象者人数	佐方地区住民 多数
参加学生人数	なし
活動内容	アイラブ佐方自治会主催イベント「親善盆踊り大会」が開催された。佐方地区に関係のある方々が来賓で来られており、挨拶回りと交流を図った。小学生たちによる太鼓隊で盆踊りが始まり、にぎやかな盆踊り大会となった。自治会の方、地域住民の方と交流を持ちつつ、状況に合わせて手伝いを行った。
所感	学生の参加は無く、教員2名での参加だったが、れんげ祭りで覚えていただけだったので、親睦を深めることができた。しかし学生の参加について確認されたので、学生を連れて参加できるように案内は早めに行い、学生を連れての参加が望ましいと思った。

【佐方4】

さがたっこひろば（小学生対象の料理教室）

（食物栄養学科）松崎 好

活動の目的	佐方自治会行事への参加の一つとして、さがたっこひろば（小学生対象の料理教室）にスタッフとして参加。
大学側の目的	社団法人全国調理師養成施設協会の食育普及啓蒙事業の一環として行う。 「食育インストラクター」を受験する栄養調理コースの学生が食育実習のため当日のアシスタントを行う。
共催団体名および共催の経緯	主催：佐方市民センター
活動年月日・時間	2025年11月29日 8:30～13:00 佐方市民センターにて下準備、実習、片付け
活動の拠点	佐方市民センター
活動の対象者	佐方地区の小学生
対象者人数	小学生16名 1年生2名、2年生4名、3年生5名、4年生2名、5年生2名、6年生1名
参加学生人数	学生4名 食物栄養学科 栄養調理コース 2年生3名、1年生1名
活動内容	市民センターにて材料の計量や下準備を行い、事前に作成したパワーポイントを用いて当日使用する食材についての簡単なクイズを行った。調理実習では初めにデモンストレーションを行い、学生が各台に分かれて佐方地区の小学生16名と一緒にあんかけ焼きそばとマンゴープリンを作った。全員で試食後、片付けを行い解散とした。 この事業は、食育インストラクターを受験する学生の食育実習も兼ねて行っている。本学学生にとって調理を教える立場となるのは初めての経験だが、教えることの難しさや楽しさを味わうことができたように思う。
所感	食育クイズでは食品の栄養について楽しく学んでもらうことができた。初めは緊張していた本学の学生も佐方の小学生も、終始楽しそうに笑顔で取り組むことができていた。 アンケートでも「美味しかった」「楽しかった」といった感想を多くいただき、学生にとっても実りの多い一日になった。



## 5. 環境活動の推進

【5-1】

### 食べきりレシピの開発

(食物栄養学科)有吉 邦江・藤原 久子

活動の目的	家庭における食品ロス削減のため、食材を食べきる「食べきりレシピ」を開発
大学側の目的	地域貢献、学生の経験
共催団体名および共催の経緯	廿日市市生活環境部循環型社会推進課から依頼があった。
活動年月日・時間	2025年5月～9月
活動の拠点	山陽女子短期大学
活動の対象者	事業に関心の高い学生等
対象者人数	5名
参加学生人数	3名(食物栄養学科2年)
活動内容	<p>廿日市市が令和7年5月に市民に対し実施したアンケート調査結果（回答者：512名）を基に、廿日市市・本学・株式会社フレスタの3者協同で、食材・食品を食べきり、食品ロスを発生させないことを目的とした「食べきりレシピ」の開発を行った。アンケート結果中、最近捨ててしまった食材・食品の上位10位までを材料として、食物栄養学科2年3名が7レシピを開発した。（食材は株式会社フレスタから提供を受けた。）開発にあたり、2回の試食会を実施し、廿日市市・株式会社フレスタなどのご担当者からの意見を参考に完成させた。完成したレシピは、オープンキャンパスでの紹介を皮切りに、現在は廿日市市の「食品ロス削減」等特設サイト「はつかいち mottainai 大作戦」で公開されている。（同サイトに、試食会の様子もアップされている。）</p> <p>また、廿日市市は完成したレシピを啓発するためのポスターを作成し、フレスタ廿日市住吉店での掲示をおこなうとともに、「はつかいち mottainai 大作戦」で公開している。</p> <p>【「はつかいち mottainai 大作戦」の該当 URL】</p> <p><a href="https://hatsumeshi.com/fl-recipe/total/">https://hatsumeshi.com/fl-recipe/total/</a>（食べきりレシピ）</p> <p><a href="https://hatsumeshi.com/fl-recipe/report/">https://hatsumeshi.com/fl-recipe/report/</a>（試食会のレポート）</p>
所感	<p>学生3名ともに、「食品ロス対策」・「調理技術の集大成」の両立に熱心に取り組んだ。実社会では、一定の目的のために様々な人々と協力しながら活動していくことが日常となる。</p> <p>学生にとっては、これまで培った調理技術を活かしながら、これらの活動をしていくことの重要性を身につける貴重な機会となったと考える。</p>



【5-2】

店頭フードドライブ呼びかけ（於：フレスタ廿日市住吉店）

（食物栄養学科）有吉 邦江・藤原 久子

活動の目的	企業が廿日市市と連携して実施するフードドライブ活動への協力
大学側の目的	地域貢献、学生の経験
共催団体名および共催の経緯	廿日市市生活環境部循環型社会推進課から協力依頼があった。
活動年月日・時間	2025年9月28日 10:00~13:00（学生は12:00まで参加）
活動の拠点	フレスタ廿日市住吉店
活動の対象者	フレスタ廿日市住吉店に来店された、フードドライブに関心の高い方
対象者人数	7名
参加学生人数	3名 食物栄養学科2年
活動内容	<p>令和7年9月16日、(株)フレスタ、廿日市市及び廿日市市社会福祉協議会が、フードバンク活動に係る三者連携協定を締結した。</p> <p>この協定に基づき、9/28から実施することとしたフレスタ廿日市住吉店での店頭フードドライブ活動に本学学生も参画し、フードドライブへの協力を呼びかけるとともに、参加学生3名が開発した「食べきりレシピ」を配布した。</p> <p>【PR TIMES（プレスリリースサービスプラットフォーム）URL】  <a href="https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000017.000021452.html">https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000017.000021452.html</a></p> <p>【参考：活動内容がレポートされた廿日市市「食品ロス削減」等特設サイト「はつかいち mottainai 大作戦」のURL】  <a href="https://hatsumeshi.com/fl-event20250928/">https://hatsumeshi.com/fl-event20250928/</a></p>
所感	当日は、広島県が食品ロス対策の一環として企画した野菜保存袋の配布（目的：家庭で余りがちな野菜等の「使いきり」を推進）も行ったが、これに伴う県のプレス効果により、県内にとどまらず、全国に向けて本学の取組が知られることとなった。



【5-3】

フードドライブ連携実施（はつかいち mottainai 大作戦）

（食物栄養学科）有吉 邦江・藤原 久子

活動の目的	廿日市市、廿日市市友和市民センターが実施するフードドライブ活動への協力、廿日市市が実施する「はつかいち mottainai 大作戦」への協力
大学側の目的	地域貢献、学生の経験
共催団体名および共催の経緯	廿日市市生活環境部循環型社会推進課、廿日市市友和市民センターとの協議
活動年月日・時間	2025年9月～11月
活動の拠点	陽月祭、はつかいち環境フェスタ、心と心のハーモニーフェスタ フレスタ廿日市住吉店、フジグランナタリー店、マックスバリュ佐伯店
活動の対象者	12名
対象者人数	不明
参加学生人数	フレスタ廿日市住吉店3名（食物栄養学科2年）、陽月祭6名（食物栄養学科1～2年）、はつかいち環境フェスタ3名（食物栄養学科2年）
活動内容	本学が行う陽月祭、廿日市市ゼロカーボン推進課が窓口のはつかいち環境フェスタ、廿日市市社会福祉協議会が行う心と心のハーモニーフェスタに加え、地元スーパーマーケットが行う店頭フードドライブについて、連携して実施することを、ちらしを作成してイベント等で配布するとともに廿日市市の食に係る特設サイト「はつかいち mottainai 大作戦」でアピールした。 【「はつかいち mottainai 大作戦」内該当ページ URL】 <a href="https://hatsumeshi.com/202410_fooddrive-2/">https://hatsumeshi.com/202410_fooddrive-2/</a> <a href="https://hatsumeshi.com/fl-recipe-report/">https://hatsumeshi.com/fl-recipe-report/</a> （試食会のレポート）
所感	陽月祭で行うフードドライブも2年目となり、多くの食品寄付をいただいた。地元の市民センターである佐方市民センターと連携して実施することが可能かどうか、引続き検討する。

陽月祭で寄付いただいた食品（廿日市市社会福祉協議会に贈与）



【5-4】

## はつかいち環境フェスタ 2025

(食物栄養学科)岡崎 尚・有吉 邦江・藤原 久子・松崎 好

活動の目的	企業が廿日市市と連携して実施するフードドライブ活動への協力
大学側の目的	地域貢献、学生の経験
共催団体名および共催の経緯	廿日市市生活環境部ゼロカーボン推進課と連携し、大学が実施する環境関連の活動を継続して紹介してきた。
活動年月日・時間	2025年10月5日 10:00～15:00
活動の拠点	ボートレース宮島（廿日市市宮島口1-15-60）
活動の対象者	はつかいち環境フェスタ2025への参加者
対象者人数	約1,400名
参加学生人数	3名(食物栄養学科2年)
活動内容	<p>食品ロス対策推進の一環として次の活動を行った。</p> <p>家庭で余りがちな食材を利用し、食物栄養学科栄養調理コース2年生が開発した「食べきりレシピ」の紹介と、レシピの一つについては試食品の提供をした。</p> <p>参加した学生が所属するお菓子作りのサークル「スイーツハウス」としては、もみじ饅頭の製造過程で生じる小豆の皮を使った「抹茶パウンドケーキ」（食物繊維の不足を補うもの）の販売を行った。</p>
所感	<p>試食品は、老若男女問わず好評で、自宅で作ってみたいとの感想もいただいた。</p> <p>抹茶パウンドケーキは100個すべてを完売し、これも好評であった。</p>



【5 - 5】

## 家庭で余りがちな食材食べきり教室の開催

(食物栄養学科)有吉 邦江・藤原 久子

活動の目的	家庭における食品ロス削減のため、家庭で余りがちな食材を使った「食べきり教室」を開催した。
大学側の目的	地域貢献、学生の経験
共催団体名および共催の経緯	廿日市市友和市民センターから大学と共同での食品ロス対策事業ができないか依頼があった。
活動年月日・時間	2025年12月12日 10:00～13:00
活動の拠点	廿日市市友和市民センター（廿日市市友田407-1）
活動の対象者	事業に協賛されている地域の方
対象者人数	15名
参加学生人数	3名(食物栄養学科2年)
活動内容	<p>食物栄養学科2年3名が、食品ロス対策として家庭で余りがちな食材を使い開発した「食べきりレシピ」を紹介するため、料理教室を開催した。</p> <p>食生活改善推進員を中心とした地域の参加者とともに、「食べきりレシピ」のうち4品を共同で調理し、試食した。</p> <p>【参考：活動内容がレポートされた「はつかいち mottainai 大作戦」のURL】  <a href="https://hatsumeshi.com/fl-event20251220/">https://hatsumeshi.com/fl-event20251220/</a></p>
所感	<p>参加者は、学生との交流や新しいレシピの紹介を喜んでおられ、次のイベントで使用したいなどのコメントをいただいた。</p> <p>また、それぞれ調理の手際が良く、学生に対し参加者から栄養面でのアドバイスもあったり、食材の切り分けの工夫が必要であることが分かったりなどして、学生にとって学ぶことが多い教室だった。</p>



## 7. その他の事業

【7-1 (1)】

### 学生消防隊①

活動の目的	桜まつり
大学側の目的	学生消防隊活動
共催団体名および共催の経緯	廿日市市消防本部
活動年月日・時間	2025年4月6日
活動の拠点	木材港北 昭北グラウンド
活動の対象者	一般市民
対象者人数	多数
参加学生人数	7名(臨床検査学科2年:1名 臨床検査学科3年:6名)
活動内容	消防団員募集広報、住警器アンケート調査、防火服着装補助など 責任者:(臨床検査学科)小野寺 利恵
所感	子どもたちとも触れ合うことができ、とてもうれしく感じました。活動を通して、地域の方々と交流することの大切さや楽しさを実感することができました。今後も活動を通して、地域の方々に防災を身近に感じてもらいたいと思いました。



## 地域貢献・地域連携活動報告

【7-1(2)】

### 学生消防隊②

活動の目的	大野みんなのまつり
大学側の目的	学生消防隊活動
共催団体名および共催の経緯	廿日市市消防本部
活動年月日・時間	2025年6月8日
活動の拠点	やまだ屋もみじファミリーパーク
活動の対象者	一般市民
対象者人数	多数
参加学生人数	3名(臨床検査学科2年)
活動内容	消防団員募集広報、住警器アンケート調査など 責任者：(臨床検査学科)小野寺 利恵
所感	多くの方が消防団の活動に興味を持って話を聞いてくださり、アンケートにも快くご協力いただきました。実際に地域の方々と関わることで、消防団の活動を知ってもらうことの大切さや、防災意識を高める取り組みの重要性を改めて感じることができました。



【7-1(3)】

学生消防隊③

活動の目的	あゆみ夜回り
大学側の目的	学生消防隊活動
共催団体名および共催の経緯	廿日市市消防本部
活動年月日・時間	2025年6月13日
活動の拠点	廿日市市消防本部
活動の対象者	あゆみ子ども会
対象者人数	7名
参加学生人数	3名(臨床検査学科2年)
活動内容	防災意識を高めるために子供たちが「火の用心」と地域に呼びかける運動の補助。夜回り参加者の安全管理。 責任者：(臨床検査学科)小野寺 利恵
所感	子どもたちと一緒に夜回りを行いました。地域の防災意識を高める活動として、このような取り組みが行われていることを知り、とても意義のある活動だと感じました。実際に子どもたちと声を掛け合いながら地域を回することで、防火や防災について考える良い機会になりました。自分たちもその活動に関わることができ、地域の一員として役割を担えたことをうれしく思いました。



【7-1(4)】

学生消防隊④

活動の目的	女性消防隊・学生消防隊地域防災力強化研修
大学側の目的	学生消防隊活動
共催団体名および共催の経緯	廿日市市消防本部
活動年月日・時間	2025年9月20日
活動の拠点	廿日市市消防本部
活動の対象者	女性消防隊、学生消防隊、危機管理課、消防本部総務課消防団係
対象者人数	不明
参加学生人数	4名(臨床検査学科3年)
活動内容	<p>研修内容</p> <p>(1) 消防団についての説明、規律訓練</p> <p>(2) 地域防災力強化研修フィードバック</p> <p>(3) 避難所運営支援について</p> <p>責任者：(臨床検査学科)小野寺 利恵</p>
所感	<p>規律訓練では学生消防隊としての自覚をより強く持つことができました。また、様々な事例をもとに実際に参加者同士で考える研修では、現場で起こり得る状況を想像しながら判断することの難しさや大切さを学ぶことができました。多くの意見を共有することで新たな気づきもあり、とても有意義な学びとなりました。</p>



【7-1(5)】

### 学生消防隊⑤

活動の目的	あいプラザまつり
大学側の目的	学生消防隊活動
共催団体名および共催の経緯	廿日市市消防本部
活動年月日・時間	2025年11月3日
活動の拠点	廿日市市消防本部
活動の対象者	廿日市市民
対象者人数	多数
参加学生人数	3名(臨床検査学科2年)
活動内容	救命処置体験コーナー補助 責任者：(臨床検査学科)小野寺 利恵
所感	救命処置体験コーナーには多くの方が訪れ、実際に体験しながら学ばれている様子が印象的でした。 こうした機会があることで、いざという時の行動につながるのだと感じました。自分達もとても良い経験になりました。



令和7（2025）年度  
廿日市市との包括的連携協定に伴う  
地域連携センター活動報告書

---

2026年3月31日発行

発行者 山陽女子短期大学

地域連携センター

広島県廿日市市佐方本町1番1号

電話 0829-32-0909

---